

霊操 第2週 イエス・キリストは自分にとってどのような方か？ 洗礼の場面

始めの祈り

ロザリオ 光の神秘 第一の黙想 イエス、ヨルダン川で洗礼を受ける

イエスがヨルダン川で洗礼を受けられると、聖霊がくだり、「あなたはわたしの愛する子」という御父の声が聞こえました。この一連をささげて、洗礼の恵みを神に感謝し、聖霊に導かれて、神の子として生きることができるよう聖母の取り次ぎによって願いましょう。

『絵で見るロザリオの祈り』ドン・ボスコ社 2008年

イエスの洗礼

『イエス・キリストの履歴』岩島忠彦著 オリエンス宗教研究所 2011年（一部表現を変えています）

- ・洗礼のとき、イエスは父なる神様からのはっきりとした呼びかけを聞きます。
- ・霊操 第20回「幼年期のイエス」幼年期に起きた神殿でのイエスの失踪事件。
- ・私は御父と共にいる、私は御父のうちにいる、私は御父の家になければならない、と気づいたことは幼年時代のイエスにとっても大きな出来事でした。
- ・神殿は、御父がおられる場所だとその時イエスはわかりました。

・けれども、失踪事件の後イエスはナザレに戻り、30 歳になるまで、“ふつう”に生活します。そして、「**ナザレの蓄積**」が**質的転換**をする時が来ます

→**イエス様の公生活はルカでは洗礼の場面 3：21 で始まります。**

群衆にとってのヨハネの洗礼の意味

主に『福音の記録 説教集』より 岩島忠彦著 教友社 2006 年（一部表現を変えています）

ルカ 3：1～22

ヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。・・・・・・

そこで群衆は、「では、わたしたち（群衆・徴税人・兵士たち）はどうすれば良いのですか」と尋ねた。

当時、洗礼者ヨハネの悔い改めの洗礼を受けに、ユダヤ全土からヨルダン川に人々が集まっていました。自分自身ではもう、律法を守り切ることもできない、惨めさと弱さを自覚した人たちでした。洗礼を受けるまで、何時間も、何日間も待たされました。待っている間、自分たちの罪を思い浮かべて、「何とかして救われたい」「この洗礼にすがって生まれ変わりたい」と思いながら並んでいました。その中にイエスもいました。

洗礼の二つの側面

水の洗礼・ヨハネの洗礼・人の洗礼・悔い改めの洗礼

自分に死ぬ、自分からできる心構えを示す

洗礼を受けるヨハネ自身「自分には神が与える洗礼、神の子の命の洗礼は与えられない」と公言します。

霊の洗礼 神の命に生きる

マルコ 1：9

「そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、**ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた**」

群衆の中にイエスも混じっていました。

イエスご自身は、**水の洗礼を通して、霊の洗礼を受け**、天の父から「わたしの愛する子、わたしの心に適う者」と宣言されます。**水の洗礼**によって、過去との決着をつけられ、上からの**霊の洗礼**を受けられた。

古い自分に死んで、はじめて神の子として生まれる。神の命に生きる。

- ・過去の自分の決別し、神の子としての永遠の命を生き始める。
- ・「古い自分を脱ぎ捨て、新しい人を身につける」（エフェソ 4：23～24）
- 「キリストを着る」（ガラテヤ 3：27）

・洗礼はギリシア語で「バプテスマ」。その意味は「洗い」ではなく「浸し沈める」こと。

水に入って頭まで沈めてしまうことは、**自分の死**を意味する。そして上がってくる時、その人は**神の命**によって再生されている。水は死の象徴であると同時に、聖霊の象徴でもある。

イエスの洗礼の意味（生き方の転換）

「ガリラヤのナザレから**出てきて**」の**一言に大きな決意が示されている**。

- ・30年のナザレでの生活を離れて、母マリアとも別れて、神様に捧げる道を歩み始める。
- ・これまでの一切を捨てて、全く新しい尊い命をいただく。
- ・この生き方の転換点が洗礼、イエスの潔さに倣うべき。
- ・私たちは、この「主の洗礼」に与り、キリストに従って生き始めました。

「御父との親しさを体験する」（主の祈りから）

洗礼の時、子なるイエスと父なる神との親しさがはっきり現れました。聖書の中で、イエスとおん父との親しい交わりが度々語られています。

この親しさに与るために、主の祈りのはじめの呼びかけ「天におられるわたしたちの父よ」を丁寧に祈りましょう。

イエスと父なる神様との関わりを知ることで、私たちも神様との交わりを深めることができます。わたしたちの信仰の基礎ともいえる“主の祈り”を深めましょう。主の祈りは、福音全体をまとめている祈りで、イエスの生涯すべてを総合したものです。また、聖書の祈りが「父よ」という叫びで始まるのは、他にないことです。イエスは、叫ぶ気持ちもこめて私たちに「主の祈り」を教えてく

れました。

主の祈りは、「天におられるわたしたちの父よ」という呼びかけと7つの祈願でできています。

『イエスの教えた祈り 「主の祈り」を現代的視点から』 カルロ・マリア・マルティニー著 篠崎榮・レナト・フ
ィリピーニ共訳 教友社 2013年 (一部表現を変えています)

また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数
が多ければ、聞き入れられると思ひ込んでいる。彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父
は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。だから、こう祈りなさい。『天におら
れるわたしたちの父よ、／御名が崇められますように。(マタイ6：7～9)

一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っ
ていなさい」と言われた。そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れ
てもだえ始め、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましてい
なさい。」少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去
るようにと祈り、こう言われた。「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわ
たしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われます
ように。」(マルコ14：32～36)

イエスの教えた「主の祈り」を理解するためには、イエス自身の父との豊かな体験、おん父への信
頼の心に深く入る必要があります。主の祈りを理解するには、頭ではなく、実際に祈り、おん父と
の交わりのイメージを膨らませていくことが大切です。

イエスの「父」の経験

イエスが神について語るときは、ほとんど「父よ」と呼びかけています。

「私が父の家にいなければならないことを、ご存じなかったのですか」(ルカ 2 : 49 神殿での失踪事件)

生涯の終わりにおいても「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります」「父よ、彼らをお赦し下さい・・・」「父よ、わたしの霊をあなたに委ねます」(ルカ 23 : 34、46)

父と言う呼称は、初めてイエスによって使われました。当時のアラム語で「お父さん、パパ」と親しみをこめて呼ぶ習慣にならっています。「アッバ」はとても優しい呼称。イエスのおん父への根本的な信頼の表れです。私たちにも、「父よ」と呼びかけるように教えています。

「天におられる」という表現は、目を「天」に上げながら祈ったイエスのように、私たちも視線を「天」に向けるように促します。私たちの父は、どこにおられるかまったくわからない方ではありません。「天」という、父がおられる場所に向かって祈りを捧げます。

「天」は、信仰の旅の始まりと目的地です。「天」は神様の素晴らしさ(善)であふれています。また、イエス自身の誕生、十字架、復活、昇天のように、わたしたちも「天の父へ」と帰還していきます。

キリスト者の「父」の経験

キリスト者の「父」の経験は、人間的なものではなく聖霊によって私たちに与えられます。

「あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてくださいます。」(ローマ 8 : 15～16)

「あなたがたが子であることは、神が、「アッパ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送
ってくださいした事実から分かります。」(ガラテヤ4:6)

「わたしたちの父よ」(主の祈り)の言葉は、わたしたちが神の子どもたちであることと、セット
になっています。「父よ」と唱えるたびに、「私の子よ、私の子どもたちよ」という神からの呼びか
けを聴くようになります。

「父よ」と熱心に呼びかけるときに、私たちのうちに湧き上がる気持ちがあります。①親しみをこ
めて素直に話せる気持ち。②神は私がもっとも必要としているものをご存知だ、という安心感。③
神の目から自分は大切なのだ、という深い自己肯定感。④試練のときに支えられ、付き添われてい
る気持ち。

「父よ」と言う呼びかけはそれほど重要なので、主の祈りの最初におかれています。

一方、このような心から発する祈りはイエスの父への思いと対立しています。①ひたすら言葉を並
べれば願いがかなえられるとうぬぼれている。②確信がなく唱えている。③神様に明け渡していな
い祈り。

おん父との交わりを深められるようにエクササイズをしてみましょう。

1. 祈るとき「天におられる」「天におられる」・・・と、この言葉だけを何度も唱えてみてくださ
い。あなたの心にどのような気持ちがわきあがりますか？

2. 「わたしたちの父よ」「わたしたちの父よ」・・・と唱えたら、どのような神様のイメージが沸
いてきますか？ 「自分も神様の子どもなんだ」という気持ちが沸いてきますか？

3. 一日の中で散歩、家事・・・ちょっとした時間に「天におられる」・・・「わたしたちの父よ」・・・と唱えてみてください。どのような感情が湧いてきますか？ あなたの一日を「天」に向けてみましょう。

「天におられる わたしたちの父よ」と祈るうちに「もっとおん父を信頼していい」「もっと信仰生活を楽しんでいい」という感情が湧いてきませんか？

洗礼の体験① 岩島忠彦神父様 洗礼と覚悟

カトリック麴町教会 マジス 2021 年 11 月号 イエズス会司祭 岩島忠彦

聖イグナチオと私 「わたしの小道、それぞれの小道」

神父様方の熱心な指導で、季節外れの 6 月 20 日、同級生と 2 人だけで、修道院の小さな聖堂で洗礼を受けました。わたしたちは高 1 でした。洗礼を受けて以来、このことがどうでもいいことではなく、本気で取り組むべき事柄であると考え続け、18 歳、高校卒業時にはイエズス会に入る決心が固まっていました。志願期の 2 年を上智で過ごし、20 歳で広島にあった修練院で修道生活を始めました。

奉献生活者の集いから（2010 年頃）

上智大学でキリスト論などを教えておられた岩島神父さんが奉献生活者に話して下さいました。

岩島神父さんは、六甲学院の中高一貫教育の高1の時に受洗しましたが、受洗と修道生活とを併せて考えてこられたので、洗礼をのばされてきました。

信仰生活と修道生活を同一のもの。修道生活は信仰をよく生き抜くための生活形態で、信仰を生きるのであれば、中途半端はありえない。洗礼を受けたからには、信仰を極めないといけない。

高校を卒業する時には、修道生活に入ることを決め、上智大学のラテン哲学科に入学し、20歳でイエズス会に入会しました。

柴田神父の洗礼の体験 「覚悟は後から」

カトリック麴町教会 マジス 2021年5月号より (一部表現を変えています)

大学受験で志望校には入れなかった私は、埋め合わせのためのために体育会のテニス部に入りました。「就職に有利」と思ったからです。けれども、厳しい合宿生活が続かず、下級生で集団脱走しました。部に戻れなくなった私は、人生の大きな壁にぶつかっていました。すると、クラスメイトがイグナチオ教会を紹介してくれました。朝7時のミサに、坊主頭で与ります。今より随分痩せていて「刑務所から出てきたよう」に見られたかもしれません。ミサの後も思いつめて座っていました。すると後ろに座っていたご婦人が「あなたの願い事が叶うといいわね」と声をかけてくれました。この一言が洗礼に向かわせます。学生のための講座(木曜会)に1年通い、洗礼を受けました。

(1985年6月)

「あなたの願い事が叶うといいわね」勝ち負けを競う雰囲気と違う柔らかな雰囲気に触れます。

大学を卒業すると、住宅会社の営業マンに。仕事となると「結果重視」の体育会モードに。

仕事に慣れた頃、ボランティアをしようと思いつき、南山教会のレジオ・マリエに通います。筋ジストロフィーの方の入浴介助のボランティアを始めます。湯船に浸かる時は、健常者と身障者の垣根が取り払われる特別な体験をします。

ロザリオの祈りを繰り返すうちに、「マリア様の心」で奉仕する、仕事をする、目標ができました。

10 年営業で働いて、難しい仕事を終えた後「あなたの仕事は他にある」という声のようなものを聞きます。「他の仕事？」と思い巡らすうちに「司祭」が思い浮かびました。人生を神様に賭ける望みが湧きます。

洗礼の覚悟の部分 （受洗から 14 年後）

イエズス会志願書 1999 年 10 月

秋の深まりとともに、こちら（富士市）では晴れた日に富士山がとても良く見えます。私の召し出しについても、だんだんと明確になってきました。大学を卒業してから社会人の 12 年間（1988 年～1999 年）2つの祈りを大切に唱え続けてきました。1つは、イグナチオ教会の大学生を対象とした木曜会（1985～87 年：指導司祭は、桜井神父・松本神父）で唱えた、アシジのフランシスコの平和を唱える祈り。もう一つは、南山教会のレジオ・マリエで唱えたマリアの祈り（私は主のはしため、お言葉通りになりますように）。今思うと、2つの祈りが私の人生の中に静かにゆっくりと実現されて来たように思います。

司祭召命にあたっては、自分を投げ出し、自己奉献する対象が、私にとってイエズス・キリストだとわかってきました。司祭への道を歩む中で、折に触れていただく、神様からの慰め、癒しの恵みが他の何ものにも代え難いという確信が生まれてきました。

大学生の頃（１９８７年）、松本神父様が「司祭の召命は、自分を犠牲にして我慢することではなくて（人手不足の解消のためではなく）、その道が柴田君にとって最も幸せと思えるかどうか大切です。」と話して下さいました。その言葉を思い出しながら、自由な心で識別してイエズス会を志願させていただくことになりました。

何もわからないふつつか者ですが、これから祈り、祈られながら主の道を歩んで行きたいと思っています。また、こうしてイエズス会を志願させていただく恵みを与えて下さった神様に感謝します。

志願書を書いてから、22 年が経ちました。神様は、確かに恵みを下さいました。

・洗礼は、信仰生活のきっかけ。そこから「どれだけ、深められるか？」「人生を賭けていくか？」が大事。

・レジオに通い始めた時、「洗礼の恵みはこんなもの」と思っていました。

・けれどもレジオの指導司祭から「恵みは過去に縛られない（神様は次の恵みを与えてくださる）」と言われて、ハッとしました。

・仕事とレジオ（ロザリオとボランティア）を行ったり来たりするうちに、司祭の召し出しが拓けて来ました。

振り返りの質問

Q. どのような経緯で受洗しましたか？ その時どのような恵みをいただきましたか？

Q. イエス様と父なる神様の親しさを追体験したことがありますか？

Q. ナザレを出るときのイエス様の覚悟を黙想してみましょう。また、あなたは洗礼の時に人生を賭ける覚悟のようなものがあつたでしょうか？

Q. 洗礼以来、「神様は確かにわたしに恵みを下さった」実感があるでしょうか？

平和を願う祈り（アシジの聖フランシスコ）

わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。

憎しみのあるところに愛を

いさかいのあるところにゆるしを

分裂のあるところに一致を

疑惑のあるところに信仰を

誤っているところに真理を

闇に光を

悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。

慰められるよりは慰めることを

理解されるよりは理解することを

愛されるよりは愛することをわたしが求めますように。

わたしたちは与えるから受け

ゆるすからゆるされ

自分を捨てて死に

永遠の命をいただくのですから。

参考文献

- ・『イエス・キリストの履歴』岩島忠彦著　オリエンズ宗教研究所　2011年
- ・『福音の記録　説教集』より　岩島忠彦著　教友社　2006年
- ・カトリック麹町教会　マジス　2021年5月号（No 715）、11月号（No 720）
- ・『イエスの教えてくれた祈り　「主の祈り」を現代的視点から』カルロ・マリア・マルティーニ
著　篠崎榮・レナト・フィリピーニ共訳　教友社　2013年